



JIC インフォメーション

第 217 号 2022 年 1 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日 発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7F TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



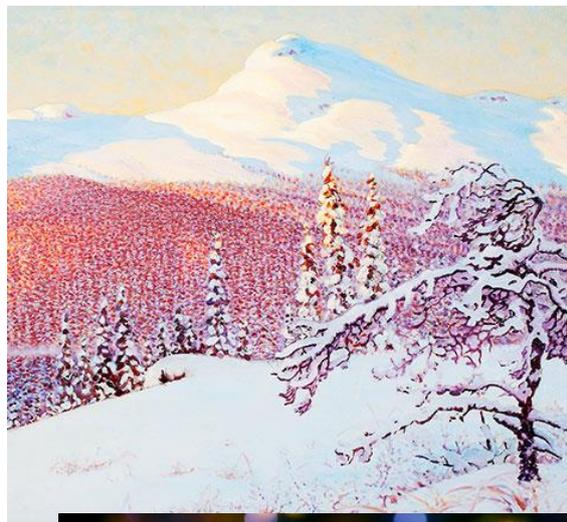
あけましておめでとうございます

今年も ^{ジェーアイシー} JIC をよろしくお祈いします!!

С НОВЫМ 2022-ЫМ ГОДОМ!!

ロシア・旧ソ連

国際交流誌



ロシアのパートナーから届いた新年カードより

<http://www.jic-web.co.jp>

《2021 年を振り返る》
オンライン・イベントで東へ西へ……杉浦 信也……2P

《JIC スタッフより新年のごあいさつ》
こんな時こそ元気を出して、一歩踏み出そう………4-16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

《2021年を振り返る》

オンライン・イベントでロシアの東へ西へ

杉浦 信也 (ジェーアイシー旅行センター株式会社 代表取締役)

さすがに1年経てば海外旅行の再開の見通しも立っているだろうと思いつつ、気がつくとも新しい年を迎えるものの先がなかなか見えてきません。それでも日本ではおおよそ8割の人が2回のワクチン接種を終えました。ロシアでは接種完了者はまだ5割弱と遅れているのが気になりますが、一刻も早くSputnik-VなどロシアのワクチンがWHOやEUで承認されて、近い将来実現されるであろう日本とロシア間のワクチン接種証明を利用した相互往来へのステップが進んでいくことを期待しています。

とはいえ、今日明日に実現されるわけでもないのに、海外渡航が再開できる日を夢見つつ、JICがこの間に取り組んできたオンライン・イベントの取り組みを紹介して昨年1年を振り返ってみたいと思います。

■ 3月13日 オンラインツアー

「行った気になるウラジオストクとハバロフスク」

JICのウラジオストクとハバロフスクのヘルプデスクを務めていただいているクセーニアさんとダーシャさんに両都市の様子を紹介してもらいました。ウラジオストクのブリヌイ専門店 ウフ・テイ・ブリン。いつか行ってみたいくなりました。



ウラジオストク連絡員
クセーニヤさん



ハバロフスク連絡員
ダリアさん

★Youtube JIC チャンネル

～ほんの一部ですがイベントで取り上げた場面を紹介中です。

<https://www.youtube.com/channel/UC4YkuWqGi4qQlu6q28jFDbQ>

<https://jictravel.exblog.jp/32149497/>

■ 4月17日 『お土産付きロシア空想旅行』 沼田元氣さんと一緒にマトリョーシカ工場見学や 土人形作りの村へヴァーチャルツアー



JICのマトリョーシカ工場見学ツアーの水先案内人を毎回務めていただいている沼田元氣さんをゲストに、土人形の産地カルゴポリ村とディムコボ村をオンライン訪問。現地職人ショヴェリョーフさんなどからビデオメッセージをいただき工房での作業を体験見学しました。



■ 8月28日 オンラインツアー 『シベリア鉄道でつなぐ、ウランウデとイルクーツク・バイカル湖』

イルクーツクのスラヴァさんとイルクーツク国立大学・日本語科ダリアさんに、シベリアの古都イルクーツクとバイカル湖、ブリヤート共和国の首都ウランウデ、そして湖岸を走るシベリア鉄道やコンパートメントの紹介などをいただきました。



<https://jicirkutskulanudeevent.peatix.com/>

■ 12 月 12 日 『ロシアのお土産付き空想旅行』 沼田元氣さんと行く、マトリョーシカ工房見学と ロシアの伝統的クリスマス・ヴァーチャルツアー

4 月の空想旅行イベントに続きマトリョーシカ発祥の地セルギエフ・ポサドの工房見学やロシア最大の蚤の市モスクワ「ベルニサージュ」、ニューイヤー&ロシア正教のクリスマス(降誕祭) 1 月 7 日にむけて飾り付けられたツリーやスケート場に早変わりしつつある赤の広場周辺の様子を日本語通訳・コーディネーターのドミトリーさんがレポート。



■ 12 月 18 日 ★ついに日本上陸! アニメ「マーシャとくま」(Маша и Медведь)から学ぶロシア★ モスクワのアニメ制作スタジオの様子やスタッフの 声を交えて

テレビ東京の「きんだーてれび」で毎週月曜朝 7 時 30 分から放送されているロシアアニメ「マーシャとくま(Маша и Медведь)」を題材にロシア正教のクリスマス、家庭料理カーシャなどロシア文化を紹介。マーシャの声優ユリヤ・ズニコワさんと音響監督兼くまの声担当のボリス・クトネヴィッチさんのレコーディング場面やロシア制作会社 animaccord のスタジオの様子など貴重なシーンを配信しました。

<https://jicmasyaimedvedi.peatix.com>

Animaccord 社の HP ⇒ <https://animaccord.ru/>

上記の通り昨年ロシアを紹介するオンライン・イベントを 5 回にわたり開催し、延べ 500 名以上の方々に参加いただきました。ここに紹介したイベント以外にも留学チームが主催したロシア留学セミナーやロシア語サロン、インバウンドチームが制作したオリンピックを迎える日本の街中の様子を伝えるロシア語動画など多くのことに取り組んできました。

コロナ禍の最中ではありますが、このコロナが終焉した後でも楽しんでいただけるイベントを作りたいという気持ちで制作してきたつもりです。結果として参加いただいたみなさんに楽しんでいただけたか、心もとないところもありますが、現地の日本語ガイドさん、マトリョーシカ工房や土人形の産地の職人さんたち、アニメの制作会社のスタッフの方々など多くの方に協力いただき一緒にイベントを作ることができたことは貴重な体験となりました。

このコロナの時期が終わりを迎えたら、ぜひ今回映像を通して出会った方々のもとへ会いに行きたいという気持ちが強まりました。

参加いただいた皆さんとも、ある時は一緒にツアーに出向き、あるときはオンラインでのイベントや交流会といった形でハイブリットな往来を楽しんでいける年となりますように。



ロシアの人気アニメ「マーシャとくま」(Маша и Медведь)

★★昨年、ロシア・シロップ「スピテン(Сбитень)」を発売しました!

古来からロシアで飲まれていたハチミツとハーブの混合飲料スピテンを JIC で初輸入。ネットショップ BASE や Amazon でも販売し、多くの方々に試飲いただきました。

紅茶やホットワインに入れたり、アイスクリーム、ヨーグルトに混ぜても美味しくいただけます。ハーブの独特の香りがクセになる。サラダやホットケーキなどいろいろなレシピが考えられます。ぜひ一度お試しください。

<https://www.jic-web.co.jp/info/sbiten.html>

<https://jicshop.thebase.in/>





JICスタッフより新年のご挨拶

コロナからの回復を願って

謹賀新年！本年も JIC をよろしく願い申し上げます。

*1 月号恒例のスタッフ新年あいさつ。今年のテーマは、「**コロナ下で思うこと**」とし、スタッフの思いを自由に書きこみました。2020 年 1 月 15 日に日本国内で初めてコロナ感染者が確認されてから、間もなく丸 2 年が過ぎようとしています。コロナとの戦いは 3 年目を迎えますが、その終息に向けた確かな道筋はまだ見えてきません。新年らしい希望に満ちた 2022 年の抱負を語ることはできないとはいえ、私たちは否応なくこれからの「with コロナ」生活を模索し、実行していかなければなりません。

この困難の中で、JIC スタッフがそれぞれ考えた新年あいさつです。本年も、JIC スタッフとともに、ジェーアイシー旅行センターおよび国際親善交流センターをよろしく願いいたします。

「座」から「海」へ

荒川 好子 (JIC ペテルブルグ)

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

毎年恒例になった今年の漢字に、2021 年は「金」が選ばれましたね。私も 2021 年を振り返って、個人的な「今年の漢字」を選んでみました。

「座」です！実際に、パソコンの前に座っている時間も長かったのですが、2021 年は家にいることが多い 1 年でした。with コロナ生活も長くなって、家に引きこもることにもすっかり慣れましたし、パソコン机を DIY したり、部屋の壁の色やカーテンを変えたり、家が前よりもっとリラックスできる場所になりました。

「家にいる」というのは、ロシア語では、「сидеть дома」と言っ、て、「座る」という意味の сидеть という語を使いますよね。なので、「座」という漢字を選んだという訳です。

2022 年は、そろそろどこかへ出かけたくなあと思っています。冬は寒くて暗いサンクトペテルブルクにいと、南の国の白い砂と青い海なんか憧れちゃいます。なので、今年の抱負の意味を込めて、2022 年の漢字は「海」という漢字にしたいと思います！夢が叶いますように。

みなさんもよい 1 年をお過ごしください。

みなさんの夢も叶いますように！

От всей души поздравляю вас с Новым годом и Рождеством! Пусть 2022 год принесет удачу и радость побед, исполнит все ваши заветные мечты и желания! Желаю вам крепкого здоровья, стойкого иммунитета и неугасимой жизненной энергии!



С Новым годом и Рождеством!

Пусть 2022 год принесет удачу и радость побед, исполнит все ваши заветные мечты и желания!



今年も楽しみます！

五十嵐 真夕 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。昨年、この新年の挨拶で「観光旅行が復活しますように…」と締めましたが、復活しないまま 2021 年が終わってしまいました(; ω ;)ウッ... それでもビジネス渡航や留学のお客様は少しずつ増え、今年こそ観光旅行の復活に期待が高まります！

さて、昨年の一年は、コロナをむやみに恐れていた一昨年とは違い、コロナ禍での自粛気味の生活をしながらも楽しみ

を模索する日々でした。大好きなお酒を飲む機会はほとんどありませんでしたが、友人とのランチ会(必ず少人数で!笑)、家族でご近所探索、子供との公園遊びなどなど...一昨年よりは楽しいことが多かったように思います。潮干狩りや川沿いでの化石発掘体験、花火、りんご狩りなど、野外で楽しむレジャーを中心に、行事の少ない学校生活を送っている子供たちにも思い出を作らせてあげることができました。

約 2 年ぶりに実家へ帰省し、両親や兄弟姉妹の顔を見られたことも本当に嬉しかったです。変わらない景色に大好きな家族、「5 分でもいいから会いたい」と言ってくれる地元の友達。安心して帰れる場所があるということは本当に幸せなことだと実感しました。

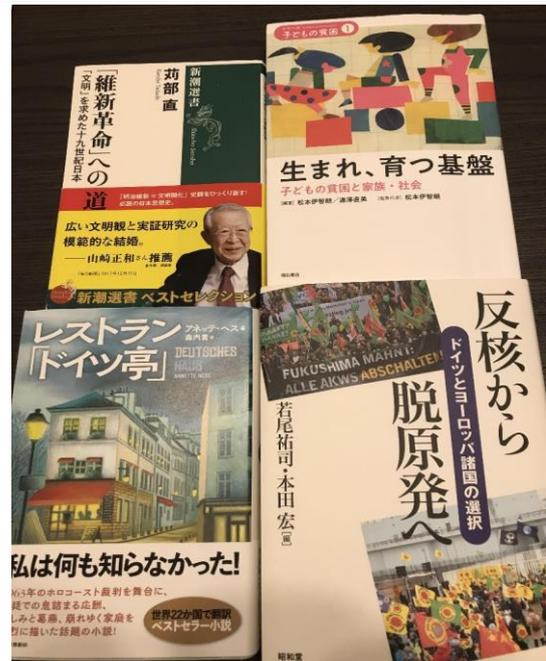
そしておうち時間が増えたことで、夫との会話がわずかに増えたことも良かったです(笑)。



小田原城にて

仲は悪くないけれど、特別仲良しでもなかった私たち夫婦ですが、ふたりでお昼ご飯を食べたり、小田原城まで半日旅行に出かけたりと、親睦を深めることができました(でもやっぱり子供がいないと会話が続かない!笑)。

まだしばらくコロナ禍は続くかもしれませんが、感染防止対策など基本的なことは続け、またしっかりと世間の状況も確認しつつ、行きたいところに行き、会いたい人に会う 2022 年にしたいと思います!



コロナ禍でも、楽しむことを 忘れずに!

稲塚 俊介(JIC 東京)

新年あけましておめでとうございます! 2022 年になりましたがなかなかコロナ終息とはいきませんね。我々旅行社からすると悪夢のような時期ですが、いくつか良いこともありそうです。個人的にコロナでよかったことを 2 つ挙げたいと思います。

①子育てには理想の時期!?

2020 年 5 月に長男が誕生し今ではもう 1 歳 7 カ月です。JIC でも男性社員が育休をとったことはなかったのですが、私は必ず取ると決心していました(笑)。ところがコロナが拡大し、在宅勤務が定着すると自然と「育休状態」になりました。通常であれば 1-2 カ月予定したところが今でもずっと続いています。こどもの成長はとても速く、毎日できることが増えていきます。朝から晩まで会社で勤務していたら見ることができなかったであろう、初めてのハイハイや立つ瞬間をこの目に焼き付けることができたのは父親としてこの上ない喜びでした。こどもが幼少期の時にどれだけ一緒に時間を過ごせるかが、今後の親子の関係を決定づけます。そういう意味ではコロナが授けてくれたスペシャル育休でした。

②ひたすら読書に専念できる

晴耕雨読という四字熟語がありますね。平時が晴れであればコロナはまさしく雨です。むしろ大雨台風レベルです(笑)。こんなときはやはり読書に限りますね。もともと読書が趣味なのですが、コロナ以前より集中できている気がします。今では月 2 回の出社のタイミングで新宿の紀伊国屋書店で本を漁って買うのが楽しみです。ロシア関連の本ばかり読むかと

思いきや、こどもの貧困や社会保障、原発、憲法など全く関係のない本ばかり読んでいます。しかし、ひたすらインプットすることでいつか必ず役に立つ瞬間が訪れると信じています。別に仕事で使えなくても読むだけで心が豊かになるのが読書の魅力だと思います。あえて遠回りする大切さをコロナは教えてくれたと思います。

悪いことがあれば良いことも必ずある。悲観的になるくらいならがむしゃらにポジティブ要素を探して少しでも人生を楽しみたいですね。

※冒頭の写真は今年読んだ中で気に入った本です。

娯楽というもの

井上 沙弥香 (JIC 東京)

まさか誰がこれほどまでこの長く暗いトンネルが続くと予想していたでしょうか。

2021 年 12 月現在もまだ、コロナを持ち込まない、蔓延させないために海外への渡航はかなり厳しく制限規制されています。海外に行くことができないわけではありませんが、費用の面でも、また隔離期間など日数的な面でも、海外渡航はかなりハードルが高く設定されています。娯楽としての旅行が再び取り戻されるのはいつになるのでしょうか。

旅行だけではありません。外で気の置けない仲間とお酒を飲むこと、美味しいご飯を食べながら談笑すること、好きなアーティストの音楽にのり歓声をあげること、観劇、そういった娯楽は真っ先に規制されてしまいました。娯楽は私たちが生きていく上で絶対に必要なものではないのだと思知らされました。



なくても生きていける、必要のないものに何を求めていたのか。それらは私たちに何をもたらしてくれるのか、変わってしまった世界でこれからどういう風にあるべきか。

コロナ禍は改めて今後皆さんに何が提供出来るだろうかとゆっくり向き合う機会にもなりました。旅行の行き先として

数多ある国の中からロシアを選んでくださった皆様に何を提供できるのか。

私自身がロシアという国に惹かれたのは、他の国にはない、形容するなら郷愁のような気持ちを覚えたからです。ロシアで生まれたわけでも、昔住んでいたわけでもないのに。寂れた路地裏、鉄道の寝台に横たわり見た地平線、橙色に染まった夜の街並、夕方の教会の鐘の音。ロシアという国は不思議です。不思議な魅力に溢れています。

おしゃれで、ごはんがおいしくて、自然が美しくそんな単純な表現では収まりきらない。他の国にはないロシアの魅力を皆様にお届けしたいと思いました。

今はまた再び海外旅行を楽しんでいただける時のために、いろいろな楽しい仕掛けを準備したいと思います。

非日常は非日常のままであったほうがいいのかもしれない

岡本 健裕 (JIC 東京)

小学生の頃、私はソ連に憧れていたのです。

と言っても、別に社会主義を信奉する政治少年だったわけではありません。そういうことには無知でした。私が憧れていたのはアエロフロート、ソ連の飛行機です。

私の生まれ育った大阪府豊中市は、伊丹空港のある町です。当時、まだ関西国際空港はなく、大阪に発着する国際線の飛行機は全て、伊丹空港に降りてきていました。自宅や学校はこの着陸ルートのすぐそばでしたので、私は毎日、家にいるときも、授業中も、世界中から飛来する飛行機を特等席で眺めていたのです。

人類の知恵の塊のような巨大な工業製品が、次から次へと、何千キロも離れた外国から家の近所まで、ひと飛びでやって来る。そしての目の前を通過して、着陸していく。

これが日常だったので、私は必然的に飛行機少年になりました。どこの国からどんな航空会社が来ているか、もちろん全て覚えていましたし、音を聞いただけでも大体、機種を絞り込みました。(と言うといかにも特殊技能みたいですが、当時まだ現役だった DC-8 や 707 などの古い飛行機は、生活に支障が出るレベルのすさまじい騒音だったので、これが飛んできたら近所の人なら大抵わかったのですけどね)

でも、どんなに待っても伊丹空港には飛んでこない飛行機がありました。それがソ連の航空会社、アエロフロートです。当時、成田空港や新潟空港などに行けばアエロフロートが見られることは知っていましたが、大阪の小学生にとってはあまりに遠く、飛行機の図鑑や雑誌を眺めては、ため息をついていました。

何がそんなにいいのかって。アエロフロートは機体から違

うのです。全部ソ連製。普段、伊丹に外国から飛んでくる飛行機はアメリカ製やヨーロッパ製ばかりですが、エアロフロートはソ連製なのです。

その頃私は、ソ連製のものを何一つ見たことがありませんでした。近所にパルナスの本社工場があって、ワシリー聖堂のイラストをまとった配送トラックが「モスクワの味」を店舗に届けているのをよく見かけましたが、あくまであれは日本製。だからもし、北の異国から本物のソ連の工業製品が風を切って自分の前に現れたら、それこそが究極の非日常なわけです。憧れるのも当然でしょう？（わかってくれる人はあまりいません。）



伊丹空港へ降りていく飛行機と小学 1 年生の私(父撮影)

夢がかなったのは 1991 年の 4 月、小学 6 年生のときです。授業中、突然聞いたことのない高いエンジン音が響きました。外を見ると、あの憧れてやまなかったソ連の旅客機、イリュージン 62 がまさに横切っていくところでした。教室の大きな窓の端から端まで、黒い排煙をうっすらと引きながら。ソ連からゴルバチョフ大統領が来日したのです。

このときは何日かにわたって延べ 5 機ほどソ連機が大阪へやってきました。ゴルバチョフ本人の乗機はソ連政府の所有する機体で、“エアロフロートにそっくりだけど、ちょっと違う”塗装が施されていたのですが、要人専用車の「ジル」をはるばるモスクワから運んできた貨物機のイリュージン 76 には、正真正銘、民間用と同じエアロフロートのロゴが描かれていました。興奮しましたね。

こんな調子で私にとっては空前のお祭り期間だったのですが、ソ連の飛行機が飛んでくるたびに窓の外に夢中になっていたものだから、先生には叱られました。

そのたった 8 ヶ月後、ソ連はなくなってしまいました。

1991 年 12 月のソ連崩壊は、衝撃でしたけど、残念ではありませんでした。憧れていたくせに薄情だと自分でも思いますが、その時の正直な気持ちです。もし 2 つの超大国が核戦争に突入したら、人類滅亡間違いなしと言われていた時代。いつか米ソはやらかすんじゃないかと私は心底震え上がっていましたから、これで世界は滅びずにすんだ、よかったと本

当にほっとしたのです。（いかにも浅い考えですが小学生のことなので許してください。）

あれからちょうど 30 年が経ちました。もう伊丹空港は国内線しか飛んでいませんし、ソ連製の飛行機は消滅寸前です。私を惹きつけていたものはすっかり変わってしまったのですが、どうやら自分は広くて大きいロシアという土地に、もともと興味があったみたいで、結局こんな仕事をしています。

今のロシアは自分にとって日常です。新型コロナだって 2 年続いたのだからもう日常です。そして一生に一度も行くことができなかったソ連は、私にとって永遠に非日常のままです。

獲得形質

金井 義彦 (JIC 東京)

まさか去年もこんな 1 年間になるとは思っていなかった。おとしについては、良い意味でも悪い意味でも未経験の世界を生きた。「まあ、こういうものか」と、自分にお休みを課するような気持ちを含めて過ごすことはできた。しかし、まだ続くとは、2021 年は元日からスイッチを無理矢理入れるつもりで、例年できないことをやろうと思い、太陽より先に起床。多摩川まで歩き、無人の土手でひとり初日の出をみつめる。お雑煮を作って食べ、食後にガレット・デ・ロワを切り分けるがフェーブには当たらず、、、新しいことをしてみようと思いいロシア語で日記をつけることに。S7 航空仕様のぶ厚いノート約 2 冊、365 日分。書いた書いた。外国語での日記、英語で書いたことさえない、日本語での日記でも 1 年間まるまる続いたことなんてなかったのに。



会社で奉納した鳥居に願懸け

翼をものがれて、つまり飛行機に乗って自由にどこかへ飛ぶことができなくなってしばらく経った。元日から大晦日まで日本から少しも飛び出せなかったのは十数年ぶりだ。毎年、視察研修のような形で同業他社スタッフの面々と北の方へ飛び、現地の食べ物や宿泊、サウナなどを体験していた。現地サウナは水着で男女一緒に入るスタイル。施設内、私自身は眼鏡が無いためモノかヒトか認識できてない視界だが、周囲から私は見えている。お腹ふよん、たふんで、まあ、みつともない身体だった。そんなことを思い出したのは、コロナ期間に体重を 17kg 落としたから。理想の体型に近づけるよう、保つよう過ごし、自由に飛べる世界が動き出すのを待つ。その時にやりたいことのひとつが、またあの面々と北へ飛び、サウナで己の身体を晒すこと。もう、ばばばと脱いで。コロナであれもダメこれもダメで悔しいから、せめてひとつだけでもよかったってことを残したい。だから体型だけは死守してやる。死んだら体守ってないけど。ウイルスばかり変異して生き延びやがって。オレだって形質を獲得してやるぜ。

「希望は最後に死ぬ」

キリチェンコ・オリガ (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。昨年はお世話になりました。今年もよろしくお祈りします。

いよいよコロナウィルスパンデミックが始まってから 2 年がたち、3 年目に突入しようとしています。コロナとの共存が当たり前になってきている中でも、日々の感染者数が気になる毎が続いています。

さて、その中でのわが社について少し紹介したいと思います。今年は 57 年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催され、注目を集めました。コロナ禍、暑さと戦いながら、汗水を流した選手の姿が、多くの人の目に焼き付いているかと思えます。賛否両論がある中で開催されたオリンピックですが、57 年前とは違い無観客開催になったため、観光業界に大きなダメージを与える結果となりました。その中で、わが社はリモートワークへの切り替えや、ロシア人観光客のための日本文化に関する動画を含む「東京オリンピック日記」の作成、様々なオンラインツアーなどを行いました。

コロナ禍生活が 3 年も続いてしまうと、未来が見えなくなり、不安になってしまいます。しかし、私たちに今できることは、個人個人の感染対策と、「もうすぐコロナウィルスパンデミックがしずまる!」という希望を持ち続けることです。

私達も、パンデミックがしずまり、オンラインではなく、対面で仲間と仕事をする日が近いことを信じています。海外の仕事仲間からメールと電話がかかってきた際には、彼らも無事に生きているのだと安心し、早く彼らに会いたいという



動画制作で中川亜紀さんと日本の家庭料理を紹介

気持ちがより高まりました。また、早く自分達の手で直接お客様の笑顔を見たいという思いも日に日に積み上げてきています。

ロシアの言い回しに、「希望は最後に死ぬ」というものがありますが、皆様も諦めずに最後まで希望を持ち続けてください。皆さんの健康を祈っています。

青い夢をかなえる

キクチ・リュボフィ (JIC 東京)

コロナの影響で、家で過ごす時間が増えてきました。生活リズムにも変わりがあります。早寝早起きになり人生についてゆっくり考えるようになりました。「コロナとは結局、なんでしょうか。自然で発生されたものか人間で作られたものか」と何度も繰り返して考えました。

将来について何度考えてもどうなるか全くわからなくて、不安定でストレスに抱かれてしまいました。自分のストレス解消方法は、知らない道を歩くことです。なるべくスマホの GPS に頼らないで散歩すると完璧ですが、全く違う方へ行っちゃうのが怖くてちょこちょこスマホで今どこにいるか確認しています。今の時代、スマホは欠かせないものとなり、一方は便利ですが、現代人はみんなスマホ依存となってしまいました。周りどこを見てもカップルでも親子でも、みんながスマホをいじっています。便利とはいいいことばかりではありません。情けなく感じています。考えてみたらコロナも人間の間の距離を管理されています。人間の間の距離に関して考えるために、ガルシア・マルケスの「百年の孤独」を読もうと思います。

大学時代から「青い」夢がありました。沖縄に行くことです。コロナが収まっていた 12 月の初めに沖縄に行くことと決め

ました。那覇空港に到着したら幸せを感じました。沖縄でいろんな方に出会えて、いろんな意味で学ぶことができ、以前わからないことがわかるようになり、心が少し強くなったと感じています。



沖縄・久高島にて、「しあわせベンチ」と書いてあるベンチ(左)と本当のしあわせベンチ(右)。人生と同じかも。

私にはもう一つの青い夢があります。「三人のママになりたい」ことです。「沖縄に行く」夢と同じようにいつか叶えることができると信じています。

コロナとは世界の一部の禍であります。歴史的に人間は禍とともに生きています。今回、コロナ以外、ロシアで気候変動、マレーシアで洪水、フィリピンで台風、そして日本でまた巨大地震が想定されています。全てを乗り越えられる為に危機感とお互いの支援で前に進んでいくことが必要だと思います。

禍に夢と心の炎を譲って負けてはいけません。何があっても自分の夢を作って、子供達の夢を応援して、誰も知らない未来へ進んでいきましょう。明るい未来をみんなの力を合わせて作りましょう。

宇宙旅行の可能性

小西 章子 (JIC 大阪)

新年おめでとうございます。新型コロナウイルスの発生から丸 2 年が経とうとしています。予想以上に影響が長引き、特に海外旅行については回復の兆しが見えず足踏み状態が続いていますが、ロシア語留学に関しては長期留学を中心に少しずつ渡航が増えてきています。今年もよろしく願いいたします。

今年の 4 月から成人年齢が 18 歳に引き下げられます。ちょうど季節柄、成人式と絡めてニュースでよく見聞きするようになりました。最近では小学校で 2 分の 1 成人式を行うというところも多いようです。子供の学校でも、親へのメッセー

ジや将来の夢を書いたカードを作っていました。女子が一度は憧れる人気の職業といえば、キャビンアテンダント！子供もキャビンアテンダントになりたいと言っていた時期がありましたが、最近は少し変わったらしく、面白いことを話してくれました。

きっかけは、つい最近話題になった前澤友作氏の宇宙滞在でした。聞いてみると、宇宙飛行士でないと宇宙に行けないと思っていた、と。言われてみれば、宇宙飛行士ではない民間人が宇宙に行ったことは、これまであまり見聞きする機会がありませんでした。前澤氏の宇宙行きは、子供には「宇宙旅行」と映ったようです。宇宙旅行＝どこか遠い未来のファンタジーもしくはアニメの中の話だったのが、少し現実味を帯びてきたように感じられたのでしょうか。みんなが宇宙に行くようになったらロケットにもキャビンアテンダントって必要だよ、と子供は言いました。何年先になるか分からないけれど、いつかそういう時代が来るかもしれません。20 年前にはユーチューバーもいなかったし、通話だけでなくゲームや買い物もできるスマートフォンもなかったし、コロナの流行だって予想できなかったのですからね。未来は誰にも分かりません。



まるで宇宙、神戸にオープンしたアクアリウム atoa の展示水槽

時代の移り変わりはあっという間です。コロナもいつかは過去のものになります。旅行業界にいる私たち JIC は確かにコロナで大きなダメージを受けましたが、いつまでも続くわけではありません。前へ進んでいきたいと思っています。そして、本当に宇宙旅行が身近になるときがきたら、JIC も無関係ではられません。きっとロシアはその分野で大きな役割を果たしてくれるでしょうから。

「同じ場にいる」ことの価値

小原 浩子 (JIC 大阪)

明けましておめでとうございます。2021 年は JIC で様々なオンラインイベントが企画・実施され、私はそのほとんどに関わらせていただきました。また今まで東京でしか行われていなかったようなイベントがオンラインで開催され、大阪からも参加できるようになり、画面上ではありますが様々な方のお話をお聞きする機会も得ることができました。コロナ下で広がったオンラインイベントやオンライン商談会は、パソコンさえ使えば東京と地方の垣根、また日本と世界の垣根さえ低くしていることを実感することができた 1 年となりました。



JIC オンラインツアーの一場面

ただ自分がオンラインイベントをやっている一つ残念に思うことがあります。イベントはだいたいチームで準備をして臨むのですが、私は大阪なので自宅から参加します。成功したイベントも失敗のあったイベントもそうなのですが、イベントが終わって直接に感想を言い合ったり、反省を聞いてもらう相手がいないのです。東京のメンバーはイベント終了後事務所でイベントの感想など言い合いながら、ちょっとここが悪かったとかあそこはよかったとか雑談しているだろう頃、私はチャットに「お疲れ様でした」と書き込んで家族のいる部屋に降りていく。東京の事務所での雑談が重要ということはないし、実際そんな会話がされているかどうかさえ私は知らないのですが、ただそのイベントが終わった後に仲間内で醸し出される一連の会話のやり取りの中で感じられる「イベントが終わった！」という充実感が感じられないことがちょっと残念で、同じ場において言葉をかけ合えたらどんなにいいだろうと、思わずにはられません。

コロナ前から直接会う価値について言われてはきましたが、リモートで様々なことができるからこそ、同じ場にいることの価値は、これまでよりも上がっているように思います。たとえそれがただの雑談であったとしても、その人の醸し出す

雰囲気や態度、言葉以外の情報も交えて会話が進み、場が作られることは、時に煩わしい事もありますが貴重であって、共感や同調や疑問や違和感、ちょっとした反応さえも、電話よりチャットより画面よりずっとリアルに心に残るからです。

オンラインイベントでリモートの便利さを享受しつつも、改めて同じ場にいることの価値を考えることになった年でした。ですから皆様、大阪にお越しの際はぜひ事務所にお立ち寄りください！お待ちしております。

日本を楽しもう

佐藤 早苗 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

去年の今頃は、何の根拠もなく、単なる希望的観測で、1年後は状況は好転しているはず！と思っていたのですが、ほぼ何も変わらない状態に不思議と違和感を感じずにいる自分がいます。それは「オンライン」という、技術の賜物のお蔭ではないでしょうか。買い物や飲み会、映画鑑賞、セミナー、筋トレまでもが、家にいながらできてしまう時代。もしコロナが 30 年前に発生していたら・・・状況は全く違ったことでしょう。

あらゆることできてしまうとはいえ、旅行に関しては「オフライン＝リアル」で行きたい、と思うのは訪れる土地それぞれの「匂い」を感じたいからかもしれません。国内ではあまり感じませんが、海外に行くとなぜ、空港の「匂い」を感じて、「異国に来たんだな～」と実感します。



とはいえ、ここしばらくは海外渡航も難しそうなので、日本国内に目を向けるのはどうでしょう。コロナ前は「国内旅行は定年後に行けばいい。今は海外だ！」と毎年のように海外に行っていました。今は国内旅行を楽しむ良いチャンスです。(もちろん状況が許せばですが)

去年は札幌、小樽、別府温泉、熱海に行ってきました。熱

海は約 30 年ぶりだったのですが、熱海といえば、バブルの崩壊とともに一時は観光業は衰退していましたが、ここ数年で若者に人気のスポットとなっているようです。お洒落なカフェやスイーツのお店がどんどん増え、以前のイメージとは明らかに変わってきています。

実際、駅に到着すると、土曜日ということもあってか、沢山の若者でごった返していました。有名な「熱海プリン」や口コミサイトで人気の定食屋さんには長蛇の列で、断念せざるを得ませんでした。この盛り上がりはコロナ禍の影響?かと思いきや、2017 年頃にはすでに始まっていたそうです。

まだ国内で訪れたことがない場所がたくさんあるので、しばらくは国内旅行を楽しみたいと思います。

(移動が制限されないことを祈るばかりですが)

はじめての飼育生活

白井 真理奈(JIC 東京)

昨年の夏、小学校に通う我が家のこども達が「授業で使うから」と、家にある虫取り網と虫かごを学校へ持って行きました。なんでも授業の一環で虫取りをするようで、お便りにそんなことが書いてあったのを思い出しました。

夕方になり、学童にこども達を迎えに行くと、とても大事そうに小脇に虫かごを抱えて来る姿が・・・。

「これ今日学校でとった虫たち。家に持って帰るから!!」と、絶対に逃がさないの一点張り。

とって、観察して、逃がして終わり、と思いついていた虫取りの授業。まさかお持ち帰りさせるとは^^;

こども達は小学校 2 年生。生き物を大切にする気持ちや命の尊さを学ぶにはこれも良い機会だろうと、買うつもりが無かった飼育箱をすぐさま購入。帰宅後、虫たちを箱へ移しかえてあげると、いるわいるわ、オススメ様々、いろんな種類が!! ショウリョウバッタ・オンブバッタ・イボバッタ・エンマコオロギなど(←図鑑でめっちゃくちゃ調べました)。バッタだけでも 3 種類、それにコオロギまで!! 短時間で良くそんなに見つけたよね、と半ば感心(笑)

どうやって飼えば良いのか、種類によって生態は様々。昆虫図鑑とネットを駆使し、はじめての飼育生活が始まりました。バッタには新鮮な稲科の草と水。夜行性で湿気を嫌うコオロギは風通しの良い日陰に。共食いを避ける為、動物性たんぱく質を切らさないよう餌に配慮。コオロギの鳴き声に毎晩癒され、いつしかミツカドコオロギ・ハラオカメコオロギをエンマコオロギの「お友達」として迎え入れる日もありました。時には、ヒナバッタやクビキリギス(キリギリスの仲間)やコバネイナゴをとって帰る日もありました。

飼育生活が定着し、数ヶ月を共に過ごした虫たちですが、



飼育箱と、つぶらな瞳が可愛い
クビキリギス♂(褐色型)

思っている以上に寿命は短く、季節の移り変わりと共に死んでいってしまいます。「うちに来てくれてありがとう」の気持ちと共に、スcoop片手に最後のお別れ。儂いかな、これも自然の摂理。

2022 年 1 月現在。我が家では 3 匹のクビキリギスたちが、ゴソゴソと半冬眠しながら元気に越冬中。あたたかな春が来るのを、今か今かと心待ちにしています^^

「コロナ下で考えたこと」

神保 泰興 (JIC 東京)



あけましておめでとうございます。新型コロナとの戦いも、もう 2 年近くになりました。自分も、2019 年の 12 月にモスクワに行き、以来、国外に出ない期間が 2 年以上になると

いうのは、海外、とりわけロシア・旧ソ連地域と関わるようになってからの 30 年以上の間で、経験のない長さになります。実は昨年末に、ロシア側パートナーへの挨拶回りを兼ねて、ビジネス出張者への特例として、事前の届け出による日本帰国後の隔離措置の実質的な緩和(14 日間→3 日間)を実証しようと、ロシアへの渡航を考えていたのですが、オミクロン株の感染拡大によりこの特例制度が一時停止となり、断念しました。今のところ(2021 年末時点)、ロシアでの入国制限は、短期滞在者に対しては入国 48 時間前以内の PCR 検査証明の提示だけなので、この緩和措置が再度動き出せば、少なくともビジネス関係の往来はある程度は再開できるようになると期待されます。このコロナ下であって、私たち旅行業者は、人と人の心をつなぐ、文化と文化をつなぐお手伝いという大切な仕事をしてきたのだ、と改めて自覚させられています。「書は言を尽くさず 言は心を尽くさず 事事 見

「参の時を期せん」という言葉があります。メールや SNS もあり、電話もあり、またコロナ禍のもとで、ZOOM などのオンラインツールもずいぶん普及しました。しかし、文字や音声、また画面越しではなかなか伝わらない、直接足を運び、自分の五感で体感することでしか理解できないものは、たくさんあると思います。そうした人と人の心をつなぐ、文化と文化をつなぐお手伝いができる日々が、1 日も早く取り戻せることを、毎日深く祈るような思いで待ち続けています。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

インバウンド部のホームページ

竹村 貢 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

インバウンド部の竹村です。

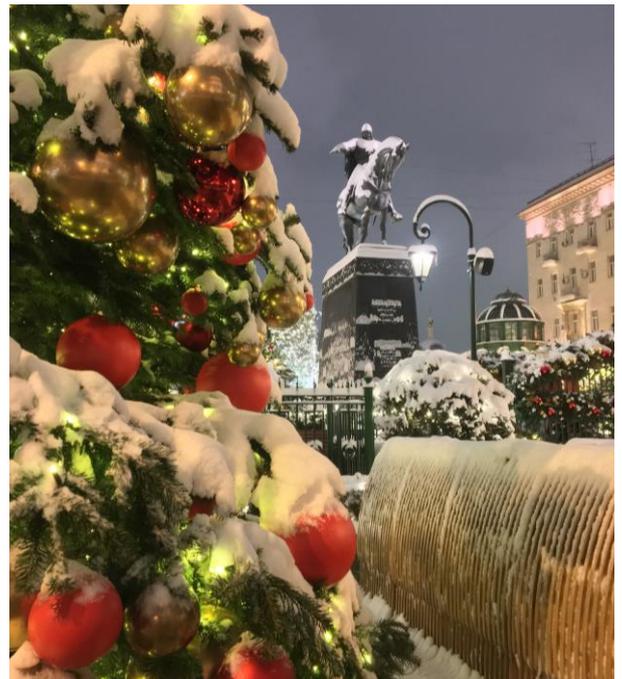
昨年 11 月にはコロナの感染者数が落ち着き、国内旅行に関しては徐々にお客さんが戻りつつあり、GoTo トラベル再開の話も出てきていましたが、インバウンド旅行に関しては、ついこの間ビズネストラックの入国制限が緩和されたと思ったら、オミクロン株急拡大の影響で再び外国人の日本入国制限が行われ、まだまだ先は見えません。

ロシアやバルトの旅行代理店からは、「いつになったら日本に入国できるの?」といった問い合わせや、「コロナ前に催行していた、同じようなツアーに何人が行きたい人がいるけど、2022 年の春は行けるの?」というメールが来ます。

ロシア語ホームページの改訂をしています。2019 年の末から Web 制作プラットフォームを使って、以前の HP から内容を移植したり、新たに写真を付け加えたりして、ここ最近ようやく HP らしくなってきました。今後は、この HP から旅行の予約や決済ができるようにして、繁忙期に少しでも手間を減らせればと思っています。

もしお時間あるようであれば、下記リンクからご覧ください。→ <https://jictravelcenter.com/>

来年 2023 年は「コロナが明けましておめでとうございます」、なんて書ければといいなあと思っています。では今年もよろしくお願ひいたします。



改訂中のホームページ

ヨーロッパの一部の国はロシア人観光客の受け入れをしているので、日本もそのうち旅行できるんじゃないかと思っで問い合わせをくれるのですが、日本の外国人旅行者の受け入れの再開にはもうしばらく時間がかかりそうなので、何かいい情報があれば連絡するねといった返事しかできません。

そんなわけで、今は見積もりや手配する案件もないので、コロナ前になかなか手の付けられなかったインバウンド部の

「with コロナの生活」

チスティリーナ・イリーナ (JIC モスクワ)

皆さん、新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス下で迎える 2 回目の年末年始が近づいてきました。コロナ禍で生活習慣はどう変わりましたか?

with コロナの暮らしは、ロシア人の生活にさまざまな変化を起こしています。リモートワークが可能になりましたから、自宅で過ごす時間が増えました。暇な時間にさまざまなオンラインコースを受ける人が大幅に増えています。例えば英語学習の需要は約 65% 増加しています。今年に「自己隔離の影響で、体重はどう変わったのか」という調査が行われました。5 キロ以上増えたと答えたのは女性で 21%、男性で 15% でした。2020~2021 年に体を動かす量が減りましたので、アウトドアアクティビティがとても人気になりました。夏には自転車、SUP (スタンドアップパドル)、ノルディックウォーキングをする人がいっぱいいました。冬のシーズンはスキー、

アイススケート、スノーボードが非常にポピュラーなスポーツです。

ロシア人はコロナのニュースに疲れました。制約が長引けば長引くほど、ルールを守る人は減っていきます。ウイルスを恐れることにも、禁止されることにも疲れているのです。パンデミックの初期には、隔離は健康を維持するための手段と考えられていましたが、今では人々は新しいルールを責任を持って受け入れていません。国境が閉ざされている状況に不満を感じている人も少なくありません。もちろん、ロシア人が旅行できる国もありますが、一方で、今は観光ができない国もたくさんあります。2022 年に自分の健康を大事にして、世界中どこでも旅行できるようになることを期待しています。

皆様お元気で幸多き一年となりますように！

コロナ禍で始めたこと

中林 英子 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

昨年はどうな一年だったでしょうか？JIC は引き続き時短勤務、在宅勤務を続けています。

せっかく時間があるのだから、何かしなければ時間ももたない思い、始めたことの一つが完全独学でイタリア語学習です。英語に例えるとまだ、中学 1 年生の文法のレベルまでも行かないのですが、まったく 0 の状態から 1 になるのはうれしいものです。イタリアには何度も旅行で行きましたが、言葉はできなくても旅行はできるし、観光客が多いので、主要都市であれば、英語が通じるので必要ないと思っていました。それでもイタリア語で挨拶されることは多かったので、いくつかの挨拶くらいは覚えようというのがきっかけです。



今は早く海外旅行に行きたいと夢見ながら毎日 10 分練習問題でトレーニングするのが日課になりました。

最初のうちは、簡単なあいさつや単語の練習だったのでどんどん進んで楽しかったのが、少しずつ難しくなってきた、

文法書が必要なところまでできました。

イタリア語は私にとって 3 つ目の外国語ですが、英語に似ている言葉、ロシア語に似ている言葉などがあって面白いです。イタリア語はラテン語に近いといわれていますので、ヨーロッパのいろいろな言語で似た単語を見つけるかもしれないですね。私が在籍していたロシアの大学でもラテン語は 1 年生の必修科目でした。苦労したのを覚えているのでラテン語に似ているイタリア語もどんなに難しいかと思ったら、ラテン語にもロシア語にもある格変化がイタリア語にはないのです。それには少しホッとしました。

高校以降の英語やロシア語は必須の勉強としてやっていたので、楽しいと思えなかったのですが、今は試験やレポートに追われることもなくのんびり自分のペースでできるので、言語学習の楽しさを久しぶりに感じています。

初めて英語の授業を受けて、初めての外国語がわかったときのようなわくわくした気分です。

今年も JIC 旅行センターをよろしくお願いいたします。
(写真は移転前のオフィスで撮った写真です)

また旅に出たいですね

百瀬 智佳子 (JIC 東京)

新年おめでとうございます。

また一年が過ぎました。私も年々歳をとり、以前には「二年前は」「五年前は」と話していたことがなべて「昔は」になりました。コロナ前などすべてが昔。

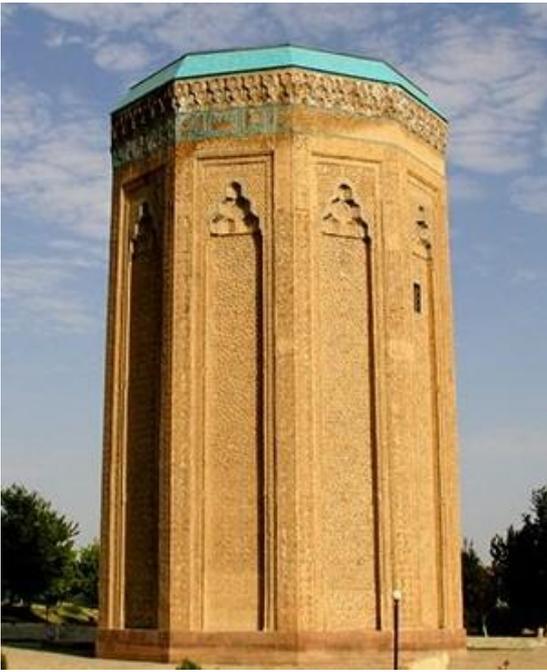
旅に行けない今、脳内再旅行でも「昔の旅」で印象深いのは何かと自問したところ、90 年代末のアゼルバイジャン国内線、バクーからナヒチェバンへの飛行機を思い出しました。昔懐かしき怪しげなフライトのご紹介がてら、その折に出会った人々の覚書を記します。

// タバコだ貰っちゃえ、と四角い箱を奪ってみれば飴の箱で、悲しげに手放した荷物の検査官。日本の飴ですよと改めて贈呈したら、サンキュと可愛く受け取りました。

// 金でもタバコでもとにかく賄賂が欲しくて荷物をまさぐり、紙袋を開けたら下着が出てきたので苦笑しつつ閉じた別の検査官。なけなしの数百ドルをその奥に隠してました。紳士でよかった。

// 珍しいのか往路で五回もパスポートと復路チケットのチェックがあり、最後に到着後の機内でチェックした機長 (なぜ?)。復路チケットを返さず、私も確認忘れそのままに。E チケット時代ではないので正規運賃百ドルで再購入しました。涙。

// 機内隣席のおじさん。勝手に私のシートベルトを外し「ベルトなんて皆しないぞ」と周りの皆と共にアピール。確かに、



ナヒチェバンはアゼルバイジャンの飛び地です

満席のうち数人以外は終始ベルトなしでした。

// 着陸態勢に入れば、携帯電話を持つ人々は軒並み取り出し「もうじき着く」「どこで落ち合う」「おー、車輪が路面に着いた！」らしき会話で盛り上がる。着陸騒音がありベルトもしていないので、興奮して立ち上がりつつ怒鳴りまくる。

// そんなカオスな機内であって、誰一人注目しない中で規定通り淡々と機内マナーや緊急マスクなどの案内をこなしていた、金髪碧眼のクールなアテンダントさん。

.....彼らもみな、数千キロ離れた地で今なおお元気かしら。お元気で年金生活あるいは今のお務めをしているかしら。世界の皆が健康で穏やかに過ごし、心おきなく旅に出て、いろんな国のいろんな人々に会える日が一日も早く来るよう願っています。

新たなチャレンジ

モロゾフ・デニス (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。皆さんはこの状況の中でも元気に過ごされていることを切に願っています。

コロナ到来から早くも 2 年が過ぎ去りました。「少し我慢すればきっと元通りになる」、「もうちょっと頑張ればきっと良くなる」などの自己暗示の中で私たち旅行会社の社員はこの 2 年間で過ごしてきました。

最初は自由時間があり余るほどできたからと喜んで、普段やれなかった事や好きな事に没頭し、2020 年があつという間に終わりを迎えたのに対して、コロナ禍の生活は一向に終わ

りませんでした。起爆剤として期待を寄せていた東京オリンピックも遂に無観客での開催となり、そして年末にオミクロン株という新しい強敵が現れ、旅行業界はまたしてもお先が真っ暗になりつつあります。

こんな状況の中、私は新しいチャレンジをしようと、心の中に決めました。以前から興味があった動画制作という分野に本格的に足を踏み入れ、撮影技法や編集の仕方を独学で学び、少しずつですが自分の世界観をアピールできるような作品を世に出し始めました。JIC が東京五輪の期間に合わせてオンラインで配信したロシア人向けのバーチャル・ツアーの



← 山登りは楽しい。
動画制作も面白い↓

制作に携わったおかげで、動画クリエイターという仕事の面白さに改めて気づき、このチャレンジ精神に火が着きました。

今まで登山の記録しか載せていなかった自分の YouTube チャンネルに「シネマティック Vlog」という枠を作り、様々なカメラワークや編集の技を試行錯誤で実践しながら、少しずつ視聴者の目に耐えられるような動画を発表するようになりました。そして次の目標は、本格的な YouTube チャンネルを立ち上げる事です。

「日本の今」をテーマに、日常のニュースや社会的な話題など、政治から観光までの様々な事案を独自の解説を加えながら、来日できないロシア人の知日派に向けて内容の濃いコンテンツを届けたいと目論んでいます。人が満足に旅行できないこの時代に、「代理で」日本を旅しながらこの国の素晴らしいところや疑問に思うところを余す事なく話す。そういうチャンネルを目指したいと思っている今日この頃です。どこまでできるのかわかりませんが、人間はやる気と勢いだと思っているので、どちらもあるうちに新しい事にチャレンジしたいと思っています。

ニューノーマル

柳沢 昭子(JIC 東京)

新年おめでとうございます。

私は映画館に行くのが楽しみの一つで、2021 年も映画館に通いました。私がよく行く映画館では、感染症対策のため、しばらくの期間一つおきに座席を使えないようにしてありました。最初のうちは、こんなことまでしなくてもいいのにと考えたのですが、いつの間にかその状況に慣れてしまい、それが通常のように感じるようになりました。秋ごろから、感染症対策が徐々に緩和され、映画館では全席使えるようになりました。それはとてもいいことだと思うのですが、映画館で両隣が空いている状態に慣れてしまっていた私にとっては、隣に知らない人が座っていることに違和感があり、人との距離が近い・近すぎる！と思わずにいられませんでした。これはほんの一例で、日常生活のなかでいろんな影響を受けているんだなと実感した出来事でした。

今年こそは、海外への留学や旅行が気軽にできるようになってほしいと心から思いますが、そこには様々な“ニューノーマル”があることを心しなければ、とも感じます。時代の変化に柔軟に対応できる頭と身体を維持しながら、今年も一生懸命に取り組んでいきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

写真は東京タワーです。今年の我が家の一番の遠出は、東京タワーでした。来年はもっと遠くへ、気軽に行けるといいですね。



ロシア伝統の味 12 種類のハーブと蜂蜜のブレンド スピテン Sbiten <発売中>

スピテン(Sbiten)は、12 種類のハーブと蜂蜜をブレンドしたロシアの伝統的シロップです。紅茶に少量混ぜれば即席ハーブティーが楽しめ、炭酸水、ホットワイン、アイスクリームやヨーグルト、サラダにかけてもおいしいいただけます。JIC では、ロシア・エストニア国境近くに位置するプスコフ州 ストルブシノ村で天然素材を使って作られた「ストルブシノ」スピテン・クラシック(250ml)を直輸入し、販売を開始しました。ロシア伝統の味をお楽しみください。

【お試しキャンペーン実施中！】20~30% OFF

商品名:《ストルブシノ》スピテン クラシック 250ml
 定価: 1本 1,944 円税込み → 1555 円税込み (20%OFF!)
 3本セットの購入なら 30%OFF → 1360 円税込み
 (1セット 4080 円税込み)

配送料: 全国一律 550 円(北海道 770 円 沖縄 880 円)、
 * 3 本以上購入の場合は送料無料

スピテンのご注文は JIC ショップで！

→ <https://jicshop.thebase.in/>

ジェーアイシー旅行センター「スピテン販売部」

ロシアのそばの実 (グレーチカ)

健康になる、キレイになる
 定番のダイエット食！

”そばの実”で 健康生活
 はじめませんか！

JIC ではロシアの伝統シロップ「スピテン」に続いて、ロシア産そばの実(グレーチカ)の販売を始めました。



「そばの実」は、高い栄養価と豊富な食物繊維に加え、ポリフェノール成分のルチンや、脂肪の吸収を抑制するレジスタントプロテインが豊富で、悪玉コレステロール値を下げ、ダイエットやアンチエイジング効果が期待できる健康食材です。世界トップクラスのバレエダンサーやフィギュアスケート選手を輩出しているロシアでは、「そばの実」が健康食品として愛されています。

Uvelka ウベルカ そばの実

1 箱 400g (80g × 4 袋) 価格 ; 1250 円

(送料込)

お求めは、JIC ショップで！

→ <https://jicshop.thebase.in/items/53213834>

発売中!

コロナからの回復を期して 求められる現実的な「withコロナ策」

伏田 昌義

コロナで明けコロナで暮れた 2021 年が過ぎ、2022 年はまたしてもコロナで明けました。3 年目を迎えるコロナとの戦いは、いまだ確たる決着の道筋が見えず、不透明なままです。

昨年夏の『第 5 波』の後、ワクチン接種の急拡大によって秋口から感染者数が急減し、11 月には水際対策の緩和、飲食店の営業やイベントなどの規制解除と、ようやく普通の生活にもどり始めたと思ったところでオミクロン型変異株が登場し、年明けから「第 6 波」の感染拡大が現実のものとなりました。

しかし、この 2 年間の経験によって、ワクチン接種だけでなく重症化を防ぐ飲み薬の開発など、コロナと戦う方法もまた蓄積されてきました。オミクロン株の特性や症例の分析が進みつつあります。どうやらオミクロン株は感染力は強いものの、2 年前に「新型コロナ肺炎」と呼ばれたような重度の肺炎症状はあまり見られなくなっているようです。南アフリカやイギリスの研究報告によると、オミクロン型では軽症や無症状が多く、重症化のリスクはデルタ型より 7 割ほど低いと言われています。実際、コロナ感染者の死亡率も低下しており、21 年前半に世界全体で 2%前後だった死亡率は 21 年末に 1%を割り 0.8%にまで下がったと報道されています (1 月 7 日、日経新聞)。

コロナウィルスもまた生き残るために弱毒化し、人間との共存の方向へと進もうとしているように見受けられます。1 月 5 日に沖縄県で開かれた専門家会議では治療にあたった医師から「デルタ株とは様相が違う。症状はインフルエンザに近い」という報告が出されていますが、コロナが弱毒化しインフルエンザの一種のようなものになっていけば、現在、厚労省がとっている感染症法に基づく防疫措置 (ゼロ・コロナ策) は根本的に見直される必要があります。

11 月 25 日に南アフリカで確認されたオミクロン株がわずか 1 カ月余りで世界 100 カ国以上に拡散したように、グローバル化した今日の世界では「Zero コロナ策」は成立しません。確かに私たち個人としては、感染しないため、重症化して死亡しないため、後遺症に悩まされないために、日常生活で「ゼロコロナ」を追求したくなる気持ちが捨てきれません。しかし、社会全体で考えると「ゼロコロナ」はそもそも実現不可能ですし、無理に追及すると感染者や医療従事者へ

の差別やひところ「自粛警察」と言われた歪んだ行動を誘発し、社会を窒息状態に追い込みかねません。

その意味で、各国がコロナに苦しみつつも、「With コロナ策」で経済活動を回しつつ、社会生活を平常に維持しようと努力しているのは、当然の選択肢です。毎日数万人、数十万人単位で新規感染者が出ている欧米諸国に比べ、人口当たりの感染者数が格段に少ない日本では、それだけにコロナへの恐怖感が強く、施策が「ゼロコロナ」に傾きがちですが、いずれ大幅な軌道修正が始まるものと期待します。

旅行業界・観光業界は、もうすでに 2 年間海外旅行や訪日旅行の需要が消滅し、経費削減と休業体制+雇用調整助成金でこのコロナ禍を凌いできましたが、「この状態があと 1 年以上も続くとなるととてももたない」と悲鳴にも似た声が上がりに始めています。

2 月から始まると見られていた Go To トラベルによる国内旅行喚起策の再開は延期され、世界中から外国人の入国を禁止する異例に厳しい日本の水際対策も当然継続されると見込まれます。この中で果たしてどこまで JIC と会社を維持することができるのか、不安は募りますが、会社とスタッフの生活を守るために、最後まで諦めずあらゆる手立てを尽くして努力を続けるつもりでおります。コロナが明けたら、ただちにロシア旅行を再開し、またロシアから訪日客を受け入れることができるよう、準備怠りなく与えられた時間を有効に活用して備えたいと思います。

本年もどうか JIC 国際親善交流センターとジェーアイシー旅行センター株式会社に変わらぬご支援をいただきますよう、よろしく願いいたします。

(JIC 国際親善交流センター副会長)

◆◆編集後記◆◆

▼今号は、恒例の JIC スタッフ新年あいさつです。お題は「コロナ下で考えたこと」。昨年から年賀状発送をやめて新年カードのメール配信に切り替えました。今年は新年のごあいさつとして JIC インフォメーションを E メールで皆様にお届けします。▼コロナ禍で会社の休業状態が続く中で、将来の再建を視野に、各スタッフがどのように考え、どのように過ごしてきたか、新年あいさつからお汲み取りください。▼今年もまだコロナに振り回される日々が続きそうですが、近い将来にコロナが終息し、皆さんが安心してロシア旅行やロシア留学を楽しむことができる日が来るまで、何とんでも持ち堪えるべく頑張ります。皆様の応援、よろしく願いいたします。(F)